

中国通信業界最新事情 事業者再編と3G開始で大激変

中国では今年に入り通信事業者の再編、独自開発のTD-SCDMA方式のサービス開始と大きな動きが相次いでいる。世界最大の通信市場である中国の最新動向を探った。

文 山根康宏 (携帯電話研究者)

今年5月24日、中国の中国工業情報化部と国家発展改革委員会、財政部は、国内通信事業者の再編方針を発表した。

現在6社ある事業者を分割・統合して3社に再編するというもので、固定系と移動系で個別に事業免許を与えていた従来方針を180度転換するものといえる。再編完了後は、各事業者が固定/移動/ブロードバンドの通信サービスを中国全土で展開することになる。

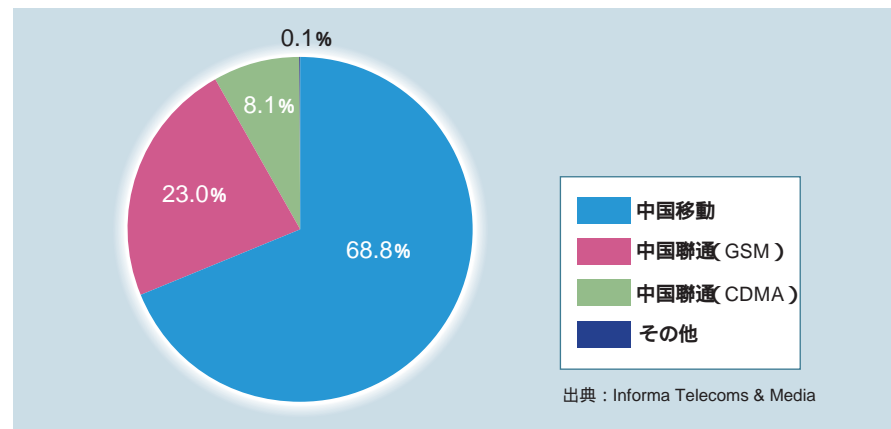
再編内容は以下の通りである(図表2)。GSMとCDMAのサービスを展開している中国聯通(チャイナコム)は、CDMA事業を固定通信事業者の中国電信(チャイナテレコム)に売却。GSM事業は固定通信事

業者の中国網通(チャイナネットコム)と合併する。

移動通信事業者の中国移動(チャイナモバイル)は、鉄道沿線などで固定電話およびADSL事業を展開する中国鉄通(チャイナレールコム)を買収。また、衛星通信事業者である中国衛通(チャイナサットコム)の基礎通信事業は中国電信へ引き継がれ、中国電信は固定/ADSL、携帯、衛星を手がける。

すでに中国移動による中国鉄通の買収は完了しており、中国電信と中国聯通間でのCDMA事業の譲渡も合意に達している。再編完了後の新たな3G免許交付も噂されており、2009年後半には中国の通信業界は大きく様変わりしていると思われる。

図表1 中国携帯電話市場の事業者別シェア(2007年第3四半期)



中国移動の「独り勝ち」を是正

今回の再編の真意はどこにあるのだろうか。中国ではこれまで、通信事業者の大規模再編が2度行われている。いずれも巨大独占企業となり圧倒的な競争力を持った中国電信の分離分割で、市場競争を促す狙いがあった。今回の再編も「市場の歪み」の是正が本当の目的である。ただし、ターゲットとなったのは、中国電信ではなく中国移動だ。

中国では、03年に携帯電話の利用者数が固定電話の利用者数を追い抜いた。その後も携帯電話利用者数は毎年20%前後のペースで順調に伸びている。一方、固定電話は年々成長率が鈍化し、07年には初めて前年度を割り込んだ。08年に入ってから中国電信、中国網通ともに毎月の新規加入者数の減少が続いており、今年6月末時点では携帯電話の利用者数6億100万に対し、固定電話は3億5600万とその差は開く一方だ。

好調な携帯電話においても、事業者ごとに明暗が分かっている。中国移動が6月に加入者数が4億人を突破したのに対し、ライバルの中国聯通は約2億人と半分にすぎない。特に中国移動の月間新規加入者数はこの3年間、右肩上がりに上昇しており、今年6月には毎月700万人以上を獲得している。一方の中国聯通は毎

月100万人台でその差は大きい。

中国移動の強さは、1社だけで固定通信事業者の総加入者数を上回り、さらに利益も固定系2社と中国聯通を合わせた計3社の2倍以上という点からも見てとることができる。

このように中国移動だけが「独り勝ち」を収めているのが、中国の通信業界の現状である。この「歪み」を是正しないことには業界全体の健全な成長はないと中国政府は考え、6社を3社に再編するという思いきった方針を打ち出したわけだ。

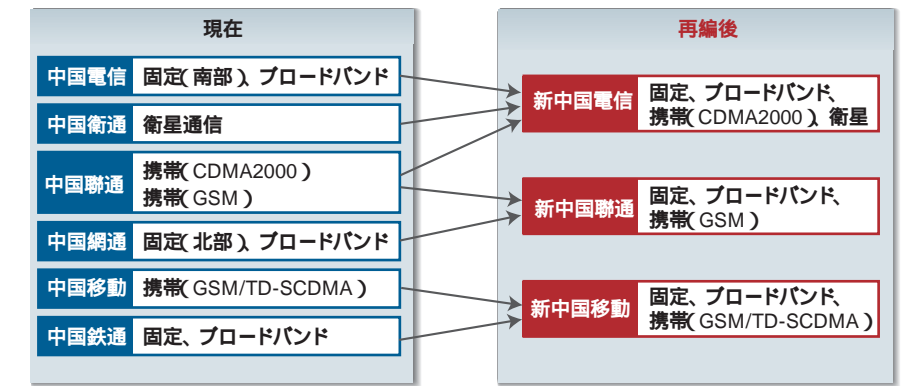
再編後の3社は固定電話とブロードバンド、携帯電話を複合的に提供するマルチプレイヤーとなることから、国際的な競争力が増すことも期待されている。将来、TD-SCDMAなど中国独自の技術を海外展開するためにも、世界的な競争に打ち勝つだけの力をつけた総合通信事業者を育成していくことも、中国政府の真の狙いの1つであるだろう。

新会社にのしかかる課題

ただ、今回の再編は市場が積極的に望んだものでなく、政府主導で行われるため、新会社3社にはそれぞれ大きな課題がのしかかってくる。

新中国電信は、悲願だった携帯電話事業をようやく手に入れることになった。しかし、中国聯通から買収するCDMA事業の利用者数は約4300万人で、中国移動の総利用者数の10分の1程度にすぎない。しかも買収には1100億元(約1兆6625億7300万円)という膨大な支払いも発生する。

図表2 中国の通信事業者再編方針



さらに携帯電話事業の拡大には数百億元規模の投資が必要と見られており、同社が目標とする「携帯電話加入者数1億人」を達成するには今後、固定やブロードバンドと携帯電話を組み合わせたFMC(固定と移動の融合)サービスを早急に展開していくことが必要だろう。

新中国聯通は中国網通の固定およびブロードバンド事業を引き継ぐものの、これまで主力サービスと位置付けてきたCDMA事業を手放すことになってしまった。同社のGSM事業はカバーエリアやサービス内容などの面で中国移動に劣る。またARPUの高いCDMA事業の顧客を失ったことから、再編後はGSM事業の建て直しが必要だ。

これに対し、巨人・中国移動は再編後も引き続き現在の強さを維持するだろうと予想されている。同社の圧倒的な資金力と営業力、そして都市部だけではなく地方都市や農村部でもブランド力を持っていることは、他社にはない大きな強みだ。

小規模の固定通信事業者である中国鉄通を合併したが、同社の固定電話やブロードバンド回線を携帯電

話の補完的な役割として活用することで、現在よりも充実したサービスを提供することもできそうだ。

滑り出し低調なTD-SCDMA

では、3Gや小靈通(PHS)の行く末はどうなるのだろうか。世界規模で2Gから3Gへの移行が進むなか、08年4月1日から北京・上海・天津・沈陽・広州・深セン・アモイ・泰皇島の全国8都市で中国移動がTD-SCDMA方式の商用テストサービスを開始した。

サービス内容は音声通話とSMSに加え、TVコールやMMSによる動画ニュース配信など。基本料金は最低プランで月額28元(約420円)と既存のGSMサービスと同程度に抑えられている。すべてのプランに10MB分の無料データ通信が含まれるなど、3Gサービス利用に便利な内容だ。

提供される端末は音声通話型の携帯電話が6機種、データ通信端末が2機種で、サムスン電子とLG電子以外はすべて中国メーカー製である。

サービスは開始されたものの、実